

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月29日

上場会社名 石垣食品株式会社

上場取引所 東

コード番号 2901 URL <http://www.ishigakifoods.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石垣 裕義

問合せ先責任者 (役職名) 経理部経理課 課長 (氏名) 小西 一幸

TEL 03-3263-4444

四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|-----|-------|------|---|------|---|------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 28年3月期第3四半期 | 369 | △12.4 | △64 | — | △65 | — | △66 | — |
| 27年3月期第3四半期 | 421 | △14.3 | △45 | — | △46 | — | △46 | — |

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 △67百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 △44百万円 (—%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 28年3月期第3四半期 | △19.58 | — |
| 27年3月期第3四半期 | △13.80 | — |

(参考) 持分法投資損益 28年3月期第3四半期 — 百万円 27年3月期第3四半期 — 百万円

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|-----|-----|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 28年3月期第3四半期 | 338 | 198 | 58.5 | 58.45 |
| 27年3月期 | 374 | 265 | 70.8 | 78.35 |

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 198百万円 27年3月期 265百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 27年3月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 28年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 28年3月期(予想) | — | — | — | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 | |
|----|-----|------|------|---|------|---|-----------------|---|------------|--|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 | |
| 通期 | 502 | △3.3 | △54 | — | △54 | — | △55 | — | △16.48 | |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、3ページ【2. サマリー情報(その他)に関する事項】(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|----------|-------------|----------|-------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 28年3月期3Q | 3,390,000 株 | 27年3月期 | 3,390,000 株 |
| ② 期末自己株式数 | 28年3月期3Q | 1,779 株 | 27年3月期 | 1,779 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 28年3月期3Q | 3,388,221 株 | 27年3月期3Q | 3,388,221 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。
なお、この四半期決算短信は、同レビュー手続の対象外であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。
実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 3 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 3 |
| (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 3 |
| 3. 継続企業の前提に関する重要事象等 | 3 |
| 4. 四半期連結財務諸表 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高369百万円(前年同四半期比12.4%減)、営業損失64百万円(前年同四半期は営業損失45百万円)、経常損失65百万円(前年同四半期は経常損失46百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失66百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失46百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲料事業

当第3四半期においては、暖かい日が続いたことから冬物商材全般が不振に陥っております。当社の飲料事業における健康茶は、基本的には通年商品ではあるものの、温かく飲むと美味しい、根菜は身体を温めるというイメージから、ごぼう茶を中心に季節性も有しており、それら市況の例に漏れず、減収傾向が続きました。

主力の麦茶は、最盛期である夏季において、記録的な猛暑日が続いたお盆前だけは好調な出荷が続いたものの、全体的には他社競合商品の厳しい価格競争に巻き込まれる形で売上高が減少、特にお盆明け後に急速に気温が低下し、涼しい日が続き、また秋以降の残暑も穏やかであったことから、低調であった前年同四半期を更に下回る減収となりました。

損益面においては、減収に伴う工場稼働率の低下が損益を悪化させたものの、生産の合理化努力などにより原価低減が図れたことから、増益となりました。

これらの結果、飲料事業全体では売上高173百万円(前年同四半期比9.5%減)、営業利益15百万円(前年同四半期比16.7%増)となりました。

② 珍味事業

珍味事業においてはビーフジャーキーについて、7月から値上げを実施してまいりましたが、特にOEM商品において値上げ前商品から値上げ後商品への切替えがスムーズに進まず、一時的に出荷の滞る時期が生じるなどの影響で減収となりました。

損益面においても、円安と原料牛肉価格高止まりによるコスト高傾向の継続、前述の減収傾向に伴う工場稼働率の低下、商品値上げの浸透が遅れたことが損益を悪化させたことに加え、大手コンビニエンスストアに供給したものの不振に終わった商品の処分販売を行ったことで、大幅な損失を計上することとなりました。

これらの結果、珍味事業は売上高191百万円(前年同四半期比14.6%減)、営業損失21百万円(前年同四半期は営業損失3百万円)となりました。

③ その他

その他事業では、だしのもとは好調に推移したものの、収益の大きな業務用ナルトが減収であったことから、その他事業合計では減収となりました。損益面では、設備負担のない委託加工事業であることから確実に利益を確保しております。

これらの結果、売上高4百万円(前年同四半期比23.6%減)、営業利益0百万円(前年同四半期比35.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により、総資産は338百万円(前連結会計年度末は374百万円)、負債は140百万円(前連結会計年度末は109百万円)となりました。純資産は198百万円(前連結会計年度末は265百万円)となり、自己資本比率は58.5%(前連結会計年度末は70.8%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、現時点では平成27年10月21日発表の当社「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の内容から修正はございません。業績に影響を与える事象が明らかになり次第、適宜お知らせいたします。

なお上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期において、重要な子会社の異動はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで2期連続して営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても当該状況が続いていることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っており、当該状況に陥った要因は主に為替の急激な円安及び牛肉価格の高騰に伴うビーフジャーキーの採算悪化であることから、現状の為替及び牛肉価格に対応した商品価格の改定、新商品投入による工場稼働率向上、営業活動エリアを拡大して新規取扱先を開拓し拡販を図る、中国生産子会社が原料牛肉調達方法を見直すことによりコストダウンを図るなど、事業採算の改善に継続的に努めております。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成27年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 33,714 | 32,501 |
| 受取手形及び売掛金 | 77,610 | 89,133 |
| 商品及び製品 | 55,468 | 34,394 |
| 原材料及び貯蔵品 | 43,226 | 15,535 |
| その他 | 4,461 | 14,121 |
| 貸倒引当金 | △0 | △0 |
| 流動資産合計 | 214,480 | 185,685 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 48,919 | 46,098 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 16,262 | 13,641 |
| 土地 | 47,780 | 47,780 |
| リース資産(純額) | 1,708 | 1,292 |
| 建設仮勘定 | 5,862 | 5,629 |
| その他(純額) | 1,978 | 1,512 |
| 有形固定資産合計 | 122,512 | 115,955 |
| 無形固定資産 | | |
| 借地権 | 19,258 | 18,135 |
| リース資産 | 6,057 | 4,583 |
| その他 | 1,697 | 1,552 |
| 無形固定資産合計 | 27,012 | 24,271 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 4,113 | 4,820 |
| その他 | 6,879 | 7,825 |
| 投資その他の資産合計 | 10,992 | 12,646 |
| 固定資産合計 | 160,518 | 152,874 |
| 資産合計 | 374,998 | 338,559 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成27年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 55,218 | 26,379 |
| 短期借入金 | 15,000 | - |
| 1年内返済予定の長期借入金 | - | 11,424 |
| リース債務 | 2,639 | 2,693 |
| 未払法人税等 | 1,034 | 638 |
| 賞与引当金 | 2,294 | 474 |
| 未払金 | 18,777 | 21,350 |
| その他 | 8,272 | 12,100 |
| 流動負債合計 | 103,236 | 75,059 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | - | 60,960 |
| リース債務 | 5,969 | 3,943 |
| 繰延税金負債 | 313 | 542 |
| 固定負債合計 | 6,283 | 65,445 |
| 負債合計 | 109,519 | 140,504 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 300,000 | 300,000 |
| 資本剰余金 | 53,293 | 53,293 |
| 利益剰余金 | △102,980 | △169,346 |
| 自己株式 | △782 | △782 |
| 株主資本合計 | 249,529 | 183,164 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 655 | 1,134 |
| 為替換算調整勘定 | 15,293 | 13,756 |
| その他の包括利益累計額合計 | 15,949 | 14,890 |
| 純資産合計 | 265,479 | 198,054 |
| 負債純資産合計 | 374,998 | 338,559 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 421,344 | 369,180 |
| 売上原価 | 283,299 | 251,066 |
| 売上総利益 | 138,044 | 118,114 |
| 販売費及び一般管理費 | 183,848 | 182,805 |
| 営業損失(△) | △45,803 | △64,691 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 10 | 10 |
| 受取配当金 | 66 | 66 |
| 雑収入 | 79 | 22 |
| 営業外収益合計 | 156 | 99 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 312 | 919 |
| 為替差損 | 272 | 418 |
| 雑損失 | 82 | 0 |
| 営業外費用合計 | 667 | 1,338 |
| 経常損失(△) | △46,314 | △65,930 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △46,314 | △65,930 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 441 | 435 |
| 法人税等合計 | 441 | 435 |
| 四半期純損失(△) | △46,755 | △66,365 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △46,755 | △66,365 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純損失(△) | △46,755 | △66,365 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 338 | 478 |
| 為替換算調整勘定 | 1,825 | △1,537 |
| その他の包括利益合計 | 2,164 | △1,059 |
| 四半期包括利益 | △44,591 | △67,424 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △44,591 | △67,424 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | - |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度まで2期連続して営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第3四半期連結累計期間においても当該状況が続いていることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っており、当該状況に陥った要因は主に為替の急激な円安及び牛肉価格の高騰に伴うビーフジャーキーの採算悪化であることから、現状の為替及び牛肉価格に対応した商品価格の改定、新商品投入による工場稼働率向上、営業活動エリアを拡大して新規取扱先を開拓し拡販を図る、中国生産子会社が原料牛肉調達方法を見直すことによりコストダウンを図るなど、事業採算の改善に継続的に努めております。

しかし、これらの施策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。